

平成26年度第4回一次電池部会を開催

平成27年2月18日、白井部会長（パナソニック株）を議長に、平成26年度第4回一次電池部会を開催した。冒頭、白井部会長よりBAJ競争法コンプライアンス・ルールに則り部会進行する旨の宣言がなされた。続いて部会長および専務理事の挨拶があったのち、各委員会の代表者より活動報告があった。



1. 白井部会長挨拶

電力及び金融を除く一部上場企業1,520社の12月末までの決算が出揃った。前年度よりも経常利益が7%増加し、その中でも製造業が前年より12%増となり全体を牽引している。

一方で、小売業は厳しい結果となっており前年より3%減であった。4月からの消費税率アップに伴う駆け込み需要の反動が予想よりも長引いており12月の年末商戦にまで影響していたようである。

電池の販売状況については、12月は比較的好調で



あったものの、年明けの1月2月は厳しい状況になっており予断を許さないものと感じている。

本日2月18日より春節休暇がスタートし、多くの中国の方が日本を訪れています。商業施設や観光地が活況を呈している。日本の勝機もこのような機会をどう生かしていくかが鍵になると感じている。

各社とも景気回復と連動して業績を成長軌道に乗せていきたいと考えていると思うが、電池業界としてはしっかりと競争法コンプライアンス・ルールを遵守しつつ、継続して正しい運用をしていきたいと考えているので、引き続きご協力賜りたい。

2. 淡路谷専務理事挨拶

電池工業会としても年度末を迎えてきている中、各部会で来年度の事業計画・予算案がひと通り出揃ってきた。その内容を見ると、全体で前年度予算を若干上回っている。その要因としては、各部会とも海外出張費が増えてきていることによる。内容としてはIECの標準化活動が活発化していることに加え、国際輸送関連の活動や各国の各種規制対応のための海外出張機会が増加しているためである。今後この傾向は続くのではないかと考えている。

このような状況の中、BAJとしても国際的な交渉力が益々求められてくると感じており、会員各社の委員の方々にはご理解とご協力を引き続きお願いしたい。



3. 委員会報告

(1) ボタン電池回収推進委員会 (楯本委員長)

<平成26年度活動総括>

・1月は定期回収の一斉配信を行なった。ボタン電池回収の協力店数は、増加。回収量も前年を大きく上回った。

- ・サンプリング調査を行なった。
- ・水俣条約採択後の動向注視と対応。
- ・その他に、リサイクラーの定期監査、広域認定の為の対応など。

<平成27年度事業計画>

- ・本年同様の活動を計画。水俣条約が回収量にどう影響するか、注視する。

(2) 器具委員会

(蜂谷委員長)

<平成26年度活動総括>

- ・BAJホームページの内容充実（携帯電灯関連記載部の英文化など）。
- ・SBA S 1602（防犯ブザー）規格改正の検討。
- ・他業界（全国防犯協会連合会）との意見交換。

<平成27年度の事業計画>

- ・SBA S 1602（防犯ブザー）規格改正原案の作成。
- ・他業界（全国防犯協会連合会）との意見交換の継続。防犯ブザーの規格改正に関して事前調整の必要を確認。
- ・SBA S 1601（携帯電灯）規格の啓蒙活動。
- ・電池器具安全確保のための表示に関するガイドライン第4版の改訂。

(3) 資材委員会

(高野委員長)

<平成26年度活動総括>

- ・主要5材料の需要・供給・価格動向のまとめ。
- ・関係団体（JOGMEC）との意見交換の実施。
- ・コンプライアンス遵守の取組み（下請法等の違反事例の勉強・研究）。

<平成27年度の事業計画>

- ・主要5材料の需要・供給・価格動向のまとめ。
- ・関係団体との意見交換の実施（電池材料資源の安定確保について・施設見学会）。
- ・コンプライアンス遵守の取組み（下請法等の違反事例の勉強・研究）。
- ・グリーン調達・環境品質の取組み（環境システム・事例の勉強・研究）。

(4) 業務委員会

(佐藤委員長)

<平成26年度活動総括>

- ・海外電池の分析（一部来年度フォローアップ事項

あり)。

- ・有事発生時の救援物資供給対応の基本フロー設計検討。
- ・統計業務担当外となることに伴う委員会名称変更の検討。「消費者委員会」を提案し、部会承認された。

<平成27年度の事業計画>

- ・電池適正表示の取組み。
- ・有事発生時の救援物資供給体制確立の取組み。
- ・海外電池の分析（平成26年度の取組みフォローアップ）。

(5) PL委員会

(杉田委員長)

<平成26年度活動総括>

- ・電池重要クレーム情報まとめ。
- ・PL関連交流（3PL合同委員会）の取組み。
- ・電池事故事例（NITE事故速報など）の情報解析。

<平成27年度の事業計画>

- ・電池重要クレーム情報まとめ。
- ・PL関連交流（他業界との意見交換・施設見学など）の取組み。
- ・電池事故事例（NITE事故速報など）の情報解析。
- ・一次電池の安全確保のための表示に関するガイドライン第6版の改訂。

(6) 技術委員会

(仁司委員長)

<2014年度活動報告>

1. JIS 規格原案作成

- ・JIS C 8513（リチウム一次電池の安全性）の改正審議実施。2015年3月に公示予定。
- ・JIS C 8500（一次電池通則）の改正原案作成開始。2015年3月に公募申請予定。

2. IEC 国際規格原案作成

- ・IEC 60086-1（一次電池通則）Ed.12, IEC 60086-2（一次電池個別製品仕様）Ed.13の改正審議を実施。
- ・IEC 60086-3（時計用電池）Ed.3, IEC 60086-5（水溶液系一次電池の安全性）Ed.4の改正審議を実施。

3. IEC / TC35（一次電池専門委員会）幹事国業務の推進と国際会議等への参画

- ・2014年5月19日～21日：札幌会議（日本）。

- ・2014年12月10日～12日：Delft会議（オランダ）。

4. リチウム電池輸送規制対応およびリチウム一次電池関連の規格審議

- ・IEC 60086-4（リチウム一次電池の安全性）Ed.4の改正審議を実施。
- ・IEC 62281（リチウム一次電池・二次電池輸送安全規格）Ed.3の改正審議を実施。
- ・国際電池輸送委員会へ参画, ICAOリチウム金属電池輸送禁止提案に対する対応実施。

5. リチウムコイン二次電池国際規格WG

- ・IEC 62133-2（リチウム系小型二次電池の安全規格）Ed.1にコイン二次規格を追加。2015年5月CDV予定。
- ・リチウムコイン二次電池の新規性能規格についてNP作成審議を実施。2015年2月各国投票予定。

<2015年度活動計画>

1. JIS 規格原案作成

- ・JIS C 8513（リチウム一次電池の安全性）の改訂版発行までのフォローを行う。
- ・JIS C 8500（一次電池通則）およびJIS C 8515（一次電池個別製品仕様）の改正原案作成審議を実施する。

2. IEC国際規格原案作成

- ・IEC 60086-1 Ed.12および IEC 60086-2 Ed.13の改正審議を実施する。
- ・IEC 60086-3 Ed.4および IEC 60086-5 Ed.4の改正審議を実施する。

3. IEC / TC35（一次電池専門委員会）幹事国業務の推進と国際会議等への参画

- ・2015年5月20日～22日：ワシントンDC会議（USA）。
- ・2015年10月頃：パレルモ会議（イタリア）。

4. リチウム電池輸送規制対応およびリチウム一次電池関連の規格審議

- ・リチウム小委員会にてリチウム一次電池に関連する情報収集と対応会議へ参画する。
- ・IEC 60086-4, IEC 62281, およびリチウム一次電池関連（UL, UN, ANSI）の規格審議を実施する。

5. リチウムコイン二次電池国際規格WG

- ・リチウムコイン二次電池の新規性能規格についてCD作成審議を実施する。

(7) 環境対応委員会 (醍醐委員長・事務局)

<平成26年度 活動実績>

1. 委員会開催 (8回開催)
 - ・UNEP水銀条約 (水俣条約) 採択を受け、国内での水銀法規制の検討が始まり、これに対する業界の対応協議を目的として昨年度は休会であった環境対応委員会を随時開催。
2. 環境省及び経産省の対応状況の概要 (2014年12月迄)
 - ・電池に関係するところでは、次の2系統の検討がされている。
 - a) 製品規制→中央環境審議会 (環境省)、産業構造審議会 (経産省) の合同会合
 - b) 廃棄物規制→中央環境審議会 水銀廃棄物検討専門委員会
 - ・特にa) の製品規制に関しては、9月12日の合同会合にBAJから事業者プレゼンを実施。その後も照明工業会、JEITA、経産省と連携しつつ、環境省との折衝と意見出しを実施。
 - ・合同会合の報告書案に対するパブリックコメントをBAJ及び個人として提出済。
3. 環境省及び経産省の対応状況 (2015年1月以降)
 - ・深掘り・前倒しの具体的な検討申し入れがあり経産省に対し電池工業会から以下を回答。
 - ①掘り : 酸化銀電池の規制値を2wt%→1wt%
 - ②前倒し: 単セルのアルカリボタン電池の無水銀化を2年前倒しし、2020年→2018年へ。但し、4LR44やLRV08のような、複数個を積層したタイプについては、単セルよりも安全性確保のハードルが高いため、今回の前倒し提案からは除外とする。
 - ・情報提供については、委員の間では依然として水銀含有表示に対する抵抗感が強い事を経産省にも主張するが、以下の落としどころを用意。
 - ③情報提供: 【自主取組としての表示】
 - ・ボタン電池はサイズの制約より、本体でなくパッケージ (裏面を想定) に表示する。
 - ・時期については、アルカリボタン電池の無水銀化期限前倒しに合わせて2018年とし、実質的に空気亜鉛電池のみが対象となるようにする。

<平成27年度 活動計画>

1. 国内水銀法規制 政省令制定への対応 (深掘り・前

倒し)

規制の枠組みとなる法案が国会に提出された後、検討の場を「水俣条約対応技術検討会」に移して、具体的な規制内容を決め、6月をめどに政省令に落とし込むことになっている。業界にとってより良い方向となるよう電池工業会が参画していく。

2. 自主取り組みとしての情報提供のあり方の検討
3. 海外無水銀アルカリボタン電池の安全性検証 (特に多数個直列)

いわゆる抜いただけ無水銀アルカリボタン電池の危険性について、まとめておくことが必要であり、すべきことを環境対応委員会で決めて、技術委員会に実行をお願いしたい。

(8) 国際環境規制総合委員会 (醍醐委員長)

<平成26年度の活動実績>

- ・冊子「世界の電池環境規制状況」の第8版を6月に発行し、日本機械輸出組合との意見交換会を実施した。
- ・地域別 (欧州/北米/アジア/中南米) の環境規制状況レポート。
- ・国際会議等への参画。
 - *9月にハンブルクで開催された、国際電池リサイクル会議 (ICBR) ・欧米電池回収団体との合同会議 (IRBCR) に参加した。
 - *3月にベルリンで開催される、3極電池専門家会議 (TWG) と世界二次電池規制フォーラム (WRBRF) に参加する予定。
- ・施設見学を実施 (10月。九州電力八丁原地熱発電所)。

<平成27年度の活動計画>

- ・各国環境規制・リサイクル状況調査と対応。
- ・ICBR、IRBCRへの参加。
- ・アジア、中南米等新興国への海外視察を計画。
- ・「世界の電池環境規制状況」の追補電子版を発行予定。
- ・リサイクル工場見学の実施。

(9) 広報総合委員会 (大道委員長)

<平成26年度の活動実績>

- ・キャンペーン・PR活動
「電池PRキャンペーン」: 毎日新聞/朝日新聞に

広告掲載。

「手づくり乾電池教室」：全国27カ所 延べ1,000名参加。

・情報発信関係

「WE LOVE DENCHI」平成26年度版を2014年6月に発行。

「啓発ポスター」の作成。

「みらいのでんち」アイデアコンテストの実施。

・出展・開催行事

「でんちフェスタinかごしま」2014年8月1日開催 1,342名来場。

「関西でんちフェスタ」2014年8月27日開催 959名来場。

「でんちフェスタ」2014年11月1日開催 1,915名来場。

<平成27年度の活動計画>

・キャンペーン・PR活動

「電池PRキャンペーン」「手づくり乾電池教室」「みらいの電池アイデアコンテスト」。

・情報発信関係

「WE LOVE DENCHI」平成27年度版の発行。

ホームページ「安全で正しい電池の使い方」に関するページの改訂。

・出展・開催行事

「でんちフェスタinもりおか」2015年7月25日開催予定（東北初開催）。

「でんちフェスタinかごしま」2015年8月29日開催予定。

「でんちフェスタ」2015年11月7日開催予定。

平成26年度 第2回二次電池部会を開催

平成27年2月19日、辰巳部会長（株GS ユアサ）を議長に、平成26年度第2回二次電池部会を開催した。会議に先立ちBAJ競争法コンプライアンスルールを確認したのち、部会長及び専務理事より挨拶があり、引き続き各委員会の代表者より活動報告が行われた



1. 辰巳部会長挨拶

部会各委員の方におかれては、期末の大変お忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。日頃BAJの活動にご協力いただき感謝する。後ほど説明があらうかと思うが、委員会運営でいろいろと問題があるということを知っている。特に分科会は12月に統廃合がなされた。分科会の統廃合があっても委員会の位置づけは変わらないと考える。特に『委員会ができたという“精神”』は変わらないので、原点に立ち戻って「何をすべきか」というということで見直しをかけていただきたい。



2. 淡路谷専務理事挨拶

ご挨拶というより1つ情報を紹介したい。ご存知の方もいらっしゃると思うが、例の太陽光発電の普及にともなう系統への接続保留対策ということで、今また「蓄電池」が注目されている。具体的には保留解除の1つの条件として「蓄電池の導入」ということも条件に上がっている。資源エネルギー庁が動いているが、我々の方では二次電池第2部会の傘下に「普及促進委員会」があり、そのサポート・提案を行っていたが、結果として資源エネルギー庁から今年の補正予算として“蓄電池の補助金”が決まった。全体としては744億円で、電池に関わる部分は700億円くらいだが従来の家庭用130億と合わせ800億円を超える補助金が出るということになった。鉛、ニッケル水素、LIB、NAS、フロー等全ての蓄電池が対象になる。今後の伸び代は分からないが、伸びる分野であるので注目してもらいたい。いずれにしても非常に多額の補助金が出るので、日本のメーカーが補助金をまず使う、ここにおられる各社さまも是非有効にビジネスマターとして取り組んでいただきたいと考える。



3. 共通総合委員会及び各委員会の活動報告と活動計画

(1) 広報総合委員会 (大道委員長)

- ・11/1の「でんちフェスタ」は1,915名の参加者となり、過去最高の大盛況だった。
- ・毎日や朝日新聞でのPR広告、電池月間キャンペーンでは32千件超の応募があり反響が大きかった。
- ・来年度も継続して同様の活動をするが、7月に東北地方で初となるでんちフェスタを開催する計画がある。

(2) 国際環境規制総合委員会 (浅井副委員長)

- ・4つの地域（欧州・北米・アジアオセアニア・中南米）に分割して情報収集活動をしている。
- ・欧州・北米地区ではボタン電池の水銀使用禁止の規制が出てくる。
- ・9/17、10/2 日本機械輸出組合で、世界の電池規制についての最新動向について意見交換をした。
- ・3月にWRBRF、TWG会議参加@ベルリンを計画している。
- ・27年度計画として、汎中南米電池工業会ALPiBaとの関係維持強化をする。2014年冊子の電子追補版を発行する。

(3) 自動車用電池委員会 (小椋委員長)

- ・業務・技サ各分科会、委員会での活動報告があった。
- ・今後の活動として、新自主スキームのなかで旧リサイクル協力店の拡大を継続する。
- ・爆発事故防止（LIB混入含む）及びISS用電池の啓発活動に力を入れる。
- ・需要予測の精度向上を図る。

(4) 資材委員会 (佐野委員長)

- ・ H26年度下期活動状況、決定事項、今後の活動計画の報告がなされた。
- ・ 上期の活動状況としては、部会からの新たな指示事項はナシ。SBRAシステムも現状問題なく、今後の委員会の定期開催は予定せず、委員会・他委員会・BAJの要求に応じ開催する。
- ・ 資材分科会の平成26年活動と今後の活動計画も併せて説明された。

(5) 自動車用鉛電池リサイクル委員会 (尾崎委員長)

- ・ 下期新自主スキームの運用状況、SBRA排出事業者登録状況、リサイクル実績等と平成27年度活動課題が報告された。
- ・ 登録件数は1/26で、地域別と業種別の構成比は前回と変わらず。部共販とタイヤ関連で過半数。回収困難な二輪店（構成比8%）の関心は高い。
- ・ 委託先の監査を行った。

(6) 技術委員会 (山口委員長)

- ・ 昨今の自動車用電池ISSの用の普及やJIS形式からEN形式への移行により国際規格の仕事が多い。
- ・ 主な活動テーマ4件（進捗～今後対応）と重要テーマ3件の報告事項について説明。
- ・ IEC関係、60095-1は改正予定のJIS-D5301との整合性が課題、-6は中国と共同で対応、-7は対象電池の絞込みが課題。
- ・ IEC61427-2は世界唯一の系統連携用蓄電池規格となり各国の取扱い要注意。
- ・ JIS D5301の改訂は自技会と協議継続中で2016年完了予定。D5302は規格改訂の方向、60095-7との整合性が課題。
- ・ SBA S0101 ISS用電池規格は、10月発行済、今後JIS D5301やSBA S0102欧州規格型との統合が課題。
- ・ 重要テーマとして3件のうち、ブラジル法規制対応、消防庁密閉型須恵器鉛蓄電池燃焼実験の内容が報告された。

(7) PL委員会 (佐野委員長)

- ・ 始動用バッテリーの事故件数（14/上まで）の調査集計の年度推移等の報告があった。

- ・ 関係官庁（国交省）年2回・団体（トラック協会、バス協会）年1回への活動などの説明があった。
- ・ 爆発の総件数は、2010年以降減少傾向。発生原因は『液切れ』が多い。
- ・ 白ナンバートラックの発生件数が多く、ここに安全啓発のポイントを絞りながら活動を計画する。
- ・ 新たな視点でのデータ分析と啓発活動推進を検討する。

(8) 産業電池委員会 (樋口委員長)

- ・ 2つの統計分科会・産電技サ分科会の活動報告がなされた。
- ・ SBA G0605とG0606の整合性を取るため改正に着手し、審議終了印刷待ち。
- ・ 「消費生活用品安全法」に係る、主に小型制御弁式鉛蓄電池の安全に対するPR啓発を検討しており、消費者に向けたリーフレット原稿審議終了。

(9) 産電リサイクル委員会 (福田委員長)

- ・ 広域認定の維持に伴う業務迅速化のため、「広域認定分科会」を1月に設立した。
- ・ 回収量増のため、広域認定での回収PRのリーフレットを作成し蓄電池整備資格者講習会でも配布・説明した。
- ・ 今後の回収量増のため、広域の金銭面以外でのメリット（リサイクルを確実に行う等）を訴求しPR・啓発活動を進める。
- ・ 産業用鉛電池の2010～2015/1の回収量の推移とVRLAのメーカーによる回収量について説明。

(10) 環境委員会 (尾崎委員長)

- ・ 鉛蓄電池SDSについては、BAJとしてのガイドライン制定を視野に入れてWGで検討中。背景として、従来個社で対応していたが、法規厳格化に伴い業界としての統一的対応をの必要が生じたため。
- ・ 米国トヨタTMSのコンサルの見解では「蓄電池はSDS提供義務対象」を受け、PEVEを加え統一見解を纏める予定。
- ・ 来年度予算を計上しコンサルにて調査の結果、運用ガイドラインの完成を6月に目指す。

ハイブリッド型電池推進船 “らいちょうN”の見学と試乗

携帯電話、パーソナルコンピュータ等の携帯機器で広く用いられているリチウムイオン電池は、近年、電気自動車、定置用蓄電システム等でも急速に普及しています。一方、船舶は現在でも主として鉛蓄電池を搭載していますが、リチウムイオン電池を搭載した船舶も開発が進められています。

これを受けて、一般財団法人 日本船舶技術研究協会様では、JIS規格の原案“船用電気設備—リチウム二次電池を用いた蓄電池設備”を作成しておられ、電池工業会の据置LIB分科会では、電池専門家の立場でこの原案作成に協力しています。

急速充電対応型電池推進船“らいちょうI”、モーター駆動ウォータージェット推進船“らいちょうS”に続き、平成26年3月、ハイブリッド型電池推進船を開発建造された国立大学法人 東京海洋大学様のご厚意により、今回、据置LIB分科会は“らいちょうN”の見学と試乗をさせていただきました。

“らいちょうN”の仕様

- 全長×全幅×全深さ： 14.0m×3.5m×1.5m
- 電動機推進出力： 45kW X 2基
- 巡航速度： 8kt
- 搭載電池容量： 145kWh
- 巡航速度時航行時間： 3.5時間(電池のみで航行時)



据置LIB分科会

同船は上記JIS規格の原案に準拠した仕様になっており、リチウムイオン電池は、船底の電池専用区画に格納されています。また、操舵室には通常の運行関連機器以外に、電池残量計等も搭載されていました。

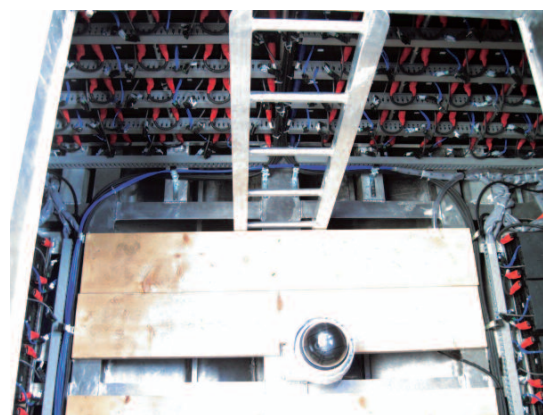
見学後、隅田川経由で東京スカイツリー迄、往復約1時間の試乗をさせていただきました。当日、同船の前を観光船（ディーゼルエンジン搭載）が航行していましたが、排気ガス臭とエンジン音が無い等の面で、電池推進船の長所を改めて再認識しました。

据置LIB分科会では、今回の経験を活かして、リチウムイオン電池の普及促進に努めていく所存です。

(二次電池第2部会 技術委員会 据置LIB分科会)



らいちょうNの操舵室



らいちょうNの電池専用区画

屋内高天井向けセラミックメタルハライドランプ 業界最長^{※1}寿命40,000時間の「エコセラF」360Wを新発売

株式会社GSユアサ

株式会社 GSユアサ（社長：依田 誠、本社：京都市南区）は、水銀ランプ400Wの安定器をそのまま使用できるセラミックメタルハライドランプ「エコセラF」360Wを発売いたしました。

今回発売した「エコセラF」360Wは、シングル発光管では業界最長の40,000時間の長寿命を実現しており、メンテナンス費用の大幅な削減が可能です。また、Ra85の演色性^{※2}を持ち、従来使用されている水銀ランプやメタルハライドランプと比較して視認性が大幅に向上するため、作業効率アップや節電に貢献します。

この「エコセラF」360Wは、屋内高天井照明（工場・倉庫・体育館など）に多く使用されている水銀ランプ400W、メタルハライドランプ400Wの交換に最適な製品です。水銀ランプは水銀条約（水俣条約）により、2020年以降の製造中止が決定しています。本製品は、既設の安定器はそのままにランプだけの交換が可能であり、LEDタイプの製品に匹敵する長寿命を持ちながら、低いコストで導入することができます。



「エコセラF」360W(左)ランプ点灯時、(右)消灯時

GSユアサはこれからも、省エネと長寿命を実現する「エコセラ」シリーズとLED照明「LEGA」シリーズの幅広いラインナップで、お客様の使用環境に最適な照明をご提案してまいります。

※1 2015年1月現在、当社調べ。

※2 演色性とは、ランプで照射したときの色彩の再現度（見え方）のこと。

【「エコセラF」360Wの特性】

製品名	エコセラF 360W	水銀ランプ 400W	メタルハライドランプ 400W
定格寿命(時間)	40,000	12,000	9,000
色温度(K)	4,000	3,900	4,000
演色性(Ra)	85	40	65

【「エコセラF」360Wのラインナップ】

形式	種別	光束(lm)
CM360・LSZE-W/BU	BT形・透明形	36,000
CM360・LSZE-W/BU-UVC	BT形・透明形	3,6000
CM360F・LSZE-W/BU	BT形・拡散形	34,200
CM360F・LSZE-W/BU-UVC	BT形・拡散形	34,200

【この件に関するお客様からのお問い合わせ先】

株式会社 GSユアサ 産業電池電源事業部
ライティング本部 営業部 営業企画グループ
TEL 03-5402-5805

【この件に関する報道関係からのお問い合わせ先】

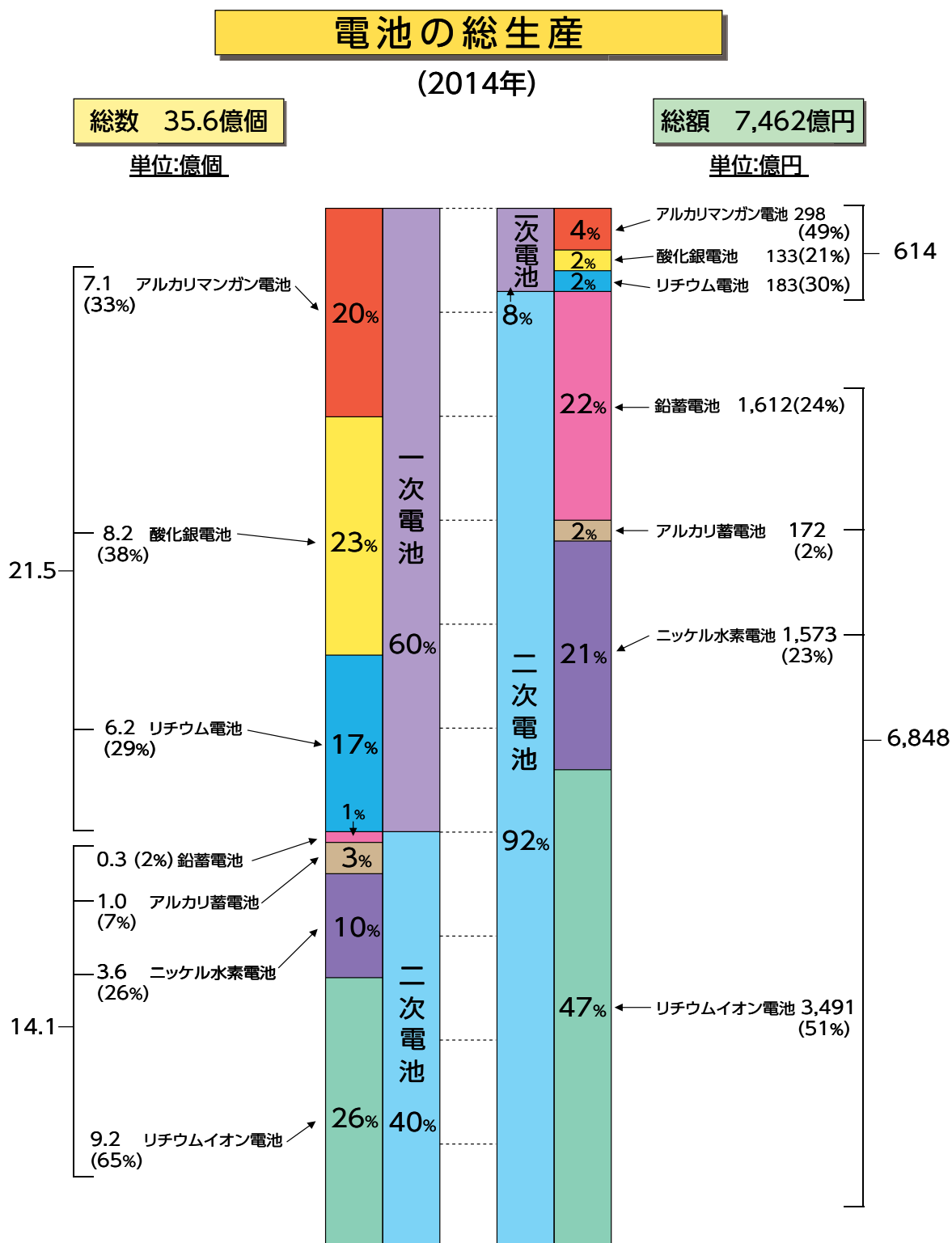
株式会社 GSユアサ 広報・IR室
TEL 075-312-1214

2014年電池の総生産額は7,462億円

経済産業省機械統計によると、2014年の電池の総生産額は7,462億円と前年比で109%と増加した。電池総生産数も35.6億個と前年比で103%と増加した。

項目別では、一次電池の生産額は614億円（前年

比102%）と微増だったが、二次電池の生産額は6,848億円（前年比110%）と大幅に増加した。種類別では、リチウムイオン電池が前年比126%と大幅に増加した。



平成27年 2月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	13日(金)	広報総合委員会	平成27年度の活動計画の検討、電池月間ポスターの検討、他。
	18日(水)	192回 講習実施委員会	福岡県にて開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考査につき、可否を判定。
	19日(木)	新種電池研究会	来年度の活動内容検討。
二次電池部会	6日(金)	産業用電池委員会	産業用電池に関する情報交換、他。
	12日(木)	自動車鉛分科会	JIS,IEC、SBA規格の審議、自技会資料作成。
	12日(木)	産業用電池リサイクル委員会	広域認定変更申請、BAJホームページ改訂の審議、他。
	13日(金)	用語分科会	S 0904/0102、小形制御弁式鉛蓄電池の安全啓発資料の審議。
	16日(月)	SDS検討ワーキンググループ	欧米の法規解釈の情報交換。
	16日(月)	産業用電池技術サービス分科会	小形制御弁式鉛蓄電池の安全に関するリーフレット検討、他。
	19日(木)	二次電池部会	各委員会H26年度事業報告・H27年度事業計画報告、予算審議、他。
	20日(金)	充電器分科会	SBA S 0904 改正審議、分科会資料-01改正審議、他。
	20日(金)	電気車鉛分科会	SBA S 0806 改正審議、S0803 改正審議。
	24日(火)	PL委員会	国交省報告結果および今後の取組み方向付け、他。
	26日(木)	小形鉛分科会	IEC62485-2 審議、識別記号の審議、他。
	27日(金)	据置アルカリ分科会	IEC/TC9 鉄道用蓄電池規格の審議、他。
二次電池第2部会	2日(月)	LIB蓄電システムワーキンググループ	建築設備基準等の検討。
	6日(金)	PL委員会	安全表示ガイドラインの改定審議。
	9日(月)	普及促進委員会	来年度の活動内容検討。
	10日(火)	技術委員会	技術一般に係る審議事項への対応。
	12日(木)	工場環境委員会	省エネ状況、ISO14001更新審査等の情報交換。
	13日(金)	国際電池輸送委員会	ICAO WG/16に関する対応審議。
	13日(金)	再資源化委員会	小形充電式電池の識別表示ガイドラインに関する審議。
	16日(月)	据置LIB分科会	IEC原案審議。
	17日(火)	統計総合委員会	来期以降の新統計システム検討。
	18日(水)	大形カスタムワーキンググループ	大形蓄電システムの普及促進検討。
	20日(金)	二次電池第2部会	本年度活動報告および来年度活動計画の審議。
	23日(月)	LIB蓄電システムワーキンググループ	建築設備基準等の検討。
27日(金)	LIB安全性技術委員会	内部短絡試験に関する対応審議。	
一次電池部会	3日(火)	PL委員会	平成27年度の活動計画の検討、他。
	5日(木)	器具委員会	ホームページ更新内容の確認、平成27年度活動計画検討。
	6日(金)	資材委員会	平成27年度活動計画の検討、他。
	16日(月)	規格小委員会	IEC 60086シリーズの検討、JIS C 8500改正審議、他。
	17日(火)	技術委員会	各小委員会及びWGの活動報告。平成27年度活動計画。
	18日(水)	一次電池部会	本年度活動報告および来年度活動計画の審議。

12月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2014年12月）

単位：数量—千個、金額—百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

2013年より経済産業省の機械統計は「その他の乾電池」が削除されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	412,395	71,029	102%	103%	4,243,998	797,343	102%	109%
一次電池計	283,922	10,714	100%	101%	2,725,070	94,504	101%	102%
酸化銀電池	70,343	1,273	108%	107%	817,624	14,240	106%	104%
アルカリ乾電池計	135,119	6,260	95%	95%	1,027,977	45,952	97%	99%
単 三	69,483	2,664	91%	91%	556,491	20,966	96%	96%
単 四	43,310	1,707	100%	99%	310,897	12,211	97%	100%
その他	22,326	1,889	97%	99%	160,589	12,775	100%	102%
リチウム電池	78,460	3,181	102%	111%	879,469	34,312	101%	106%
二次電池計	128,473	60,315	106%	104%	1,518,928	702,839	103%	110%
鉛電池計	3,434	17,948	99%	104%	32,218	169,794	100%	105%
自動車用	2,730	12,523	98%	105%	24,053	106,490	100%	107%
その他の鉛蓄電池	704	5,425	104%	103%	8,165	63,304	101%	102%
アルカリ蓄電池計	41,910	14,917	91%	95%	532,587	185,098	88%	93%
ニッケル水素	34,552	13,561	93%	96%	432,936	168,157	95%	94%
その他のアルカリ蓄電池	7,358	1,356	84%	90%	99,651	16,941	68%	84%
リチウムイオン蓄電池計	83,129	27,450	115%	108%	954,123	347,947	113%	125%
車載用	38,112	15,083	198%	117%	378,028	199,166	197%	162%
その他	45,017	12,367	85%	99%	576,095	148,781	88%	95%

12月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2014年12月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	180,384	40,137	108%	108%	2,143,652	426,707	105%	106%
一次電池計	87,832	2,613	106%	120%	1,027,217	26,711	107%	112%
マンガン	0	1	0%	9%	28	42	2%	38%
アルカリ	1,829	63	31%	64%	38,670	911	75%	111%
酸化銀	45,333	666	110%	114%	521,952	6,957	107%	99%
リチウム	40,668	1,808	114%	130%	464,679	17,845	111%	119%
空気亜鉛	0	0	0%	0%	1,399	16	89%	91%
その他の一次	1	76	2%	84%	488	940	61%	112%
二次電池計	92,552	37,523	110%	107%	1,116,435	399,996	103%	106%
鉛蓄電池	179	1,273	119%	138%	1,721	10,739	89%	101%
ニカド	4,563	427	80%	82%	64,073	5,554	57%	58%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	2	671%	52%
ニッケル水素	10,667	5,882	98%	90%	129,979	60,990	88%	91%
リチウムイオン	73,685	19,026	116%	116%	875,259	215,242	114%	107%
その他の二次	3,459	10,916	83%	103%	45,401	107,467	86%	119%
全電池合計（輸 入）	132,976	13,498	101%	110%	1,461,634	132,297	97%	98%
一次電池計	124,904	3,559	101%	184%	1,365,129	24,912	98%	114%
マンガン	19,496	238	157%	151%	166,679	2,056	98%	112%
アルカリ	86,553	1,256	93%	100%	996,652	13,266	98%	105%
酸化銀	539	16	123%	129%	3,803	108	51%	65%
リチウム	12,780	521	98%	126%	142,431	6,328	90%	107%
空気亜鉛	5,506	101	132%	126%	53,864	939	116%	129%
その他の一次	30	1,426	158%	6327%	1,699	2,215	162%	314%
二次電池計	8,072	9,940	95%	96%	96,505	107,385	94%	95%
鉛蓄電池	693	2,781	100%	92%	8,077	31,555	105%	107%
ニカド	129	233	117%	117%	1,736	2,130	103%	93%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	1	2%	8%
ニッケル水素	2,144	553	110%	112%	22,244	6,118	101%	110%
リチウムイオン	4,696	5,421	109%	96%	44,409	56,776	84%	89%
その他の二次	410	951	28%	100%	20,039	10,805	111%	94%

12月度地域別財務省貿易統計

(2014年12月)

単位：百万円

一次電池

輸 出	合 計	アルカリ	マンガン	酸化銀	リチウム	その他
東南アジア	1,327	23	0	610	693	1
欧 州	488	25	0	10	444	9
北 米	745	10	0	47	621	66
そ の 他	54	5	0	0	49	0
合 計	2,613	63	1	666	1,808	76
輸 入						
東南アジア	1,921	1,234	238	6	440	2
欧 州	154	0	0	10	12	132
北 米	1,482	22	0	0	66	1,393
そ の 他	2	0	0	0	2	0
合 計	3,559	1,256	238	16	521	1,527

二次電池

輸 出	合 計	鉛蓄電池	ニカド	ニッケル水素	リチウムイオン	その他
東南アジア	17,325	560	104	936	7,897	7,828
欧 州	6,499	188	44	2,329	2,633	1,305
北 米	12,815	306	13	2,495	8,255	1,746
中 米	532	49	265	6	183	30
そ の 他	352	170	1	115	59	7
合 計	37,523	1,273	427	5,882	19,026	10,916
輸 入						
東南アジア	8,554	2,285	71	523	5,146	529
欧 州	534	332	35	10	114	42
北 米	638	138	128	20	155	198
中 米	207	25	0	0	0	182
そ の 他	7	0	0	0	6	1
合 計	9,940	2,781	233	553	5,421	951